



1.2.太宰府天満宮でのGOTO-UCHI MARCHEプロジェクト。3.5.JAL PLAZA福岡空港9番ゲートショップと、店長の林田朝子。4.博多張子職人の三浦隆さん。八女和紙を使い、金粉をまぶすのが特徴。



R
REPORT

JALが取り組む新しい空への挑戦を皆さまにお伝えします



空港のお土産屋さんが町の中へ飛び出した!?
『GOTO-UCHI MARCHEプロジェクト』



D の直接提案、繰り返し

「ご当地ならではのモノを買いたい!」という願望と、何をどこで買えばいいのかわからない」という現状が浮き彫りになりました。そこから、ご当地の知られざる商品や魅力を、私たちならではの接客やおもてなしを生かして皆さまにお届けできないか、という発想が生まれたのです」。

イノベーション推進チームで新事業の芽を育成

時は2021年、JALUXでは社内にて新規事業の創出を目的とした「イノベーション推進チーム」の第2期募集が始まったタイミングでした。

林田は温めてきた案でイノベーション推進チームに応募。コロナ禍のさなか、旅客数に左右される空港店舗ではなく、お客さまがいらっしゃるであろう観光のタッチポイントに出て自ら接点を作ること、現地スタッフが選りすぐったまだ広く知られていない商品販売・紹介していくことで地域活性化につながる可能性などが評価され、林田の案は採用されました。



C

その後、経営陣への直接提案、繰り返しの検討会などを経て、2023年、事業化に向けたトライアルを福岡と佐賀で行うことになったのです。

「イノベーション推進チームへの参加自体、本当にここに自分が居ていいの?という不安だらけで、失敗も多く経験しました。ですが、それを上回る周囲の共感と協力を得て、トライアル実施がかないました。作り手の皆さまの思いや、お客さまの笑顔、プロジェクトに関わってくださった方々との出会いは、私だけのゴトウチ品になりました」と振り返る林田。

トライアルは、太宰府天満宮の境内や嬉野温泉の駅前、糸島の海岸という観光スポットで、今年9月から約1カ月間実施されました。このトライアルの結果によって、事業化を検討します。

「まずは福岡・佐賀にお越しいただいた皆さまに、知られざるゴト



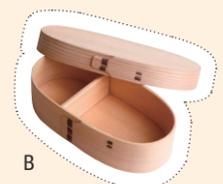
5



E

F

A.フクロウをかたどった津屋崎人形のモマ笛。B.博多曲物。C.シリコンゴムの食器。D.ハンサムな博多張子。E.だし醤油。F.久留米餅のMONPE。



B

でお客さまからお薦め商品を探ねられることが多く、ニーズを深掘りしてみたところ、ご自身が日常で使う

自分だけの旅の思い出を、日々の暮らしに持ち帰る

旅に出ると、その土地ならではの思い出を持ち帰りたくありませんか? 自分のための、日々の生活で使えるご当地のもの。そんな旅のお土産を皆さまに持ち帰っていただきたいという試みが、最近行われましたので、ご紹介いたします。

その名も「GOTO-UCHI MARCHEプロジェクト」。JALグループ傘下の「JALUXエアポート」は、空港内で総合土産店舗「JAL PLAZA」を運営していますが、空港に留まらず、市中で移動販売を行うという試みです。

企画を考案したJALUXエアポートの林田朝子は、その経緯をこう語ります。「私は福岡空港のJAL PLAZA 9番ゲートショップで店長をしています。日々の業務



A